

事業名：「但馬に演劇を届ける 2024 たじたび★但馬ツアー」
団体名：但馬旅人生活拠点。

1 事業内容

- ・巡回公演(場所 但馬地域3市2町・豊岡市1市5町のコミュニティセンターなど 計11会場)
日時 2024年10月6日～2025年2月16日 内容 1.演劇作品上演 2.レクリエーション 3.おはなし会
 - ・成果公演(場所 豊岡市民プラザ ほっとステージ)
日時 2025年1月18日～19日 内容 ボッカチオによる小説「デカメロン」を再構成した演劇作品を上演
- 【事業経過】

月 日	実施内容	場 所	参加人数
6月16日～9月	各施設の予約及び打合せ	芸術文化観光専門職大学など	3～12人
7月～2025年2月	巡回公演に向けて稽古	芸術文化観光専門職大学など	2～12人
10月5日	巡回公演リハーサル	芸術文化観光専門職大学	7人
10月6日	豊岡市で巡回公演の実施	豊岡市民会館	17人(内動員6人)
10月19日	日高町で巡回公演の実施	江原区公民館	15人(内動員6人)
10月～1月	成果公演に向けて稽古	芸術文化観光専門職大学など	3～22人
11月2日	朝来市竹田町で巡回公演	竹田地区コミュニティセンター	9人(内動員2人)
11月10日	養父市で巡回公演の実施	やぶ市民交流広場	13人(内動員3人)
11月16日	城崎町で巡回公演の実施	城崎地区コミュニティセンター	13人(内動員2人)
11月24日	新温泉町で巡回公演の実施	浜坂多目的集会施設	12人(内動員4人)
12月2日	成果公演キックオフミーティング	芸術文化観光専門職大学、オンライン	18人
12月15日	但東町で巡回公演の実施	高橋地区コミュニティセンター	19人(内動員9人)
12月22日	竹野町で巡回公演の実施	竹野地区コミュニティセンター	9人(内動員3人)
1月18～19日	成果公演の実施	豊岡市民会館	105人(内動員85人)
2月2日	香美町で巡回公演の実施	香住文化会館	9人(内動員1人)
2月9日	出石町で巡回公演の実施	弘道地区コミュニティセンター	11人(内動員4人)
2月10日	成果公演フィードバック	芸術文化観光専門職大学	11人
2月16日	朝来市生野町で巡回公演	口銀谷銀山町ミュージアムセンター(旧浅田邸)	17人(内動員13人)
2月27日	巡回公演フィードバック	芸術文化観光専門職大学、オンライン	5人

2 事業の効果

(1) 団体(組織)内の効果

ツアーで但馬全域をめぐり、公演を行ったことで、特に新劇団員は地域理解が大きく進み、活動を通じて地域との結びつきが強化された。劇団員全員が但馬外の出身者であるため、外部者の視点を持ちながらも、地域の特性やニーズに対する理解が深まったことは大きな成果と感じる。

大学で学んだ知識を実践に活かし、住民と直接触れ合いながら地域課題に取り組んだことで、劇団員それぞれの視点がより地域密着型へとシフトした。活動の目的や対象者を明確にし、従来の「但馬地域に住む方々へ」という一括りの認識から、個々の生活背景や生活様式、地域特性に運営において意識が届くようになった。それによって、レクリエーションやお話会のあり方をお客様や会場の雰囲気に合わせて少しずつ変化させながら行うことができた。

成果公演でも、偶発的な出会いが目立った。何名かたまたま買い物に訪れた方が興味をもって、観劇してくださった。その方々が観劇後、とても喜んでいる様子がうかがえ、中にはとても楽しかったと握手をしてくださったかたもいらした。私たちが本気をかけて作った作品で、そのような笑顔を見せていただき、また演劇を面白いものだと思っていただけで、改めて見てくださる方がいるから私たちは演劇ができている、この表情のためにやっているのだと実感し、座組全員の作品創作へ気が引き締まったと感じる。

このような人と人、人と作品などの出会いは、大学の中から飛び出したからこそ生まれたものであり、地域と演劇などの舞台芸術の共存の仕方について深く考える機会となった。

(2) 地域への波及

このようにそれぞれで客層が異なったことから、ツアー企画を通して違う層へのアプローチができ、但馬地域に住む広い方々に演劇体験の提供ができたにとらえられる。ツアーで出会った方と劇場で再開す

ることを一つの目的としていたが、アンケート結果を個別にみていくと、あまり達成できなかったことが分かった。しかし、昨年のツアーに参加してくださった方が、今年の成果公演にご来場いただいております、生活圏から劇場という特殊空間に来ていただくには、2～3年かけてアプローチしていくことが必要だとわかった。

3 協働の相手方

- ・芸術文化観光専門職大学公認サークル「ひよこモンズ」と巡回公演のお話会の共催
- ・但東町での巡回公演でおむすび会主催イベントと連続開催。
- ・豊岡アートアクションの協賛 ・豊岡アートシーズンへの情報掲載

4 今後の課題等

(1) 団体（組織）活動を継続するための工夫等

大学新入生の入学時期に合わせて新規劇団員を募集し、団体の継続性を確保する。そのために、これまでの4年間で得たノウハウを的確に継承し、後輩に確実に引き渡すための仕組みを構築する。本劇団は大学のサークルであり、入学や卒業によってメンバーの流動性が高くなる。そのため、技術と地域との関係性の確実な引継ぎが重要となる。引継ぎを仕組化し、体制の安定性を担保したい。

また、同じ活動の繰り返しではなく、地域住民や演劇シーンにおける革新を追求し、事業の拡大と変革を推進する。ノウハウの継承と並行して、常に新しい挑戦に果敢に立ち向かう柔軟な運営体制を維持し、次世代の活動基盤を確立し、持続的な発展を目指す。

(2) 地域活動を拡大していくための工夫等

今回、広報・集客が大きな課題となった。広報戦略として、チラシを会場や会場付近の飲食店や商店などに置かせていただき、SNS（X、instagram、Facebook）での情報発信、芸術文化観光専門職大学の学園祭でのミーティングスポットの設置を主に行った。アンケート結果によると、全体の4割近い方が知人・友人からの紹介で来てくださっていたことがわかる。対して、チラシで知った方は2割程度にとどまった。このことからチラシでの広報が有効に行えていないことがわかる。



6年10月6日 豊岡での巡回公演の様子



7年2月16日 生野での巡回公演の様子



7年1月18日 成果公演舞台写真



7年1月18日 成果公演舞台写真